

会 報 わかくさの風 No.9

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

みんなの願いと一人ひとりの願いを 実現する事業を推進していきます

桜の花が満開です！

電車の車窓から見える桜並木、そして街中の一本の桜も心を和ませてくれます。私は街中で咲いている一本の桜が好きです。桜であることを主張しているように思えるからです。障害の有無にかかわらず、人は誰もがこの桜のようにたった一度の人生を、「働く、暮らし」を通して、自分らしい人生を謳歌したいと考えています。

28年度は法人として6名の新規採用職員、4名の新規利用者を迎えることができました。職員採用が極めて難しい昨今の雇用状況のなかで、予定通り職員採用ができました。法人をしっかりと支える職員に育ってくれると確信しております。また、利用者が持ち前の力を発揮できるように、「働くこと」をしっかりと応援します。

表題にあるように、28年度はあらためて、「願い」を実現する大きなステップにしたいと考えてお

ります。会報の新年号の冒頭に、「希望の社会化・実現を目指して」障害福祉に希望を託して」と題して、「社会的な希望とは、他の誰かと希望を共有すること。他者が共有する何かと一緒に行動して実現しようとすること。」であることを紹介しましたが、まさに28年度は「希望の社会化」「願いの社会化」を実現する大きなステップを踏む年度にしたいと心を決めているところです。

28年度の新規事業はアパート型のグループホームづくり、障害のある人たちの居場所づくり、さらには29年度を目標に就労継続支援B型事業所の開設などを予定しています。そのために地域でしっかりと生活できる社会資源の開発に向けて検討チーム（プロジェクト）を設置し、取り組んでいきます。事業展開にあたっては、財源などの問題もありますが、私たちは、「願いからスタートする」という

「福祉の原点」をしっかりと押さえて財源を含めて取り組んでいきたいと考えております。皆様の応援を心からお願いいたします。

平成28年4月吉日

社会福祉法人戸田わかくさ会
統括施設長 竹嶋 紘



「わかくさの野菜販売」からの「Vegi Smile」 ～わかくさ利用者が新たな仕事を始めます～



「いらっしやいませー!」

「新鮮野菜はいかがでしょうか?」

戸田市福祉保健センターから大きな声が響く。毎月第2土曜日は、わかくさが担当する野菜販売の日。利用者、職員、ボランティア数名で野菜販売を行っています。

そして、新年度からNPO戸田EMピープルネットさんと美里町の生産農家の皆さんのご協力により、合わせて月に4回、戸田市内で販売を行なうことになりました。

新たに始まる野菜販売

開始に向けて利用者、職員みんなで意見を出しあい、自分たちのお店の名前を決めて販売をしていくことと決めました。

利用者自治会では、「お店の名前は、戸田市と美里町が関わっているから1文字ずつとって「美田」がいいんじゃない?」、「ベジタブルのお店だから、ベジマートなんかはどう?」、「じゃあトマト屋は?」、「やっぱ俺はこっちの名前がいいなあ」など様々な意見ができました。そして、名前の候補を8個に絞り投票、「Vegi Smile（ベジスマイル）」という名前に決定しました!

この名前には、埼玉県100%の野菜を通して、笑顔をうみたい、人と人をつなげたいという思いが込められています。

戸田市 × 美里町

平成4年、戸田市と美里町は姉妹都市になりました。美里町の協力農家が戸田市の生ごみ堆肥“戸田の力”を利用して野菜作りをしています。露地栽培・低農薬にこだわった新鮮野菜です。少しずつですが、たくさんの方に美里町の野菜を知ってもらい、「美味しい」「立派な野菜ね」「すっごいあまかった」などの声を頂いています。

この生ゴミが堆肥になります!



みんなの仕事

販売開始は平成23年度からでしたが、4月からは利用者の仕事が増えます。毎週1回、戸田EMピープルネットさんの作る堆肥を車に積んで美里町に届ける仕事、帰りに新鮮野菜を受け取り戸田へ運ぶ

仕事で、まさに産地直送です。

また今後の利用者の仕事として、パソコンが得意な人に野菜販売のチラシ作成をしてもらう、野菜の加工、袋詰め、レジをバーコード対応にして販売をするなど、それぞれの強み・良さを作業工程で活かせるような取り組みをおこなっていきます。利用者Aさんは、「たくさんの方に美里町の野菜を食べてもらえるといいなあ。」と話しています。利用者Nさんは、「新しい販売場所での販売は、緊張するけどがんばりたい」と話しています。利用者一人ひとりが、仕事に対して意欲的な姿勢が見られます。

地域とのつながり

わたしたちは、野菜を買いに来るお客様、地域の方々と一緒にVegi Smileを育てていきたいと考えています。その中で笑顔の輪（和）がどんどん広がっていくお店を目指していきます。是非、「戸田市 × 美里町」の野菜を食べてみて下さい。わかくさ、あいパル等で、野菜販売を行います。皆様の来店を心よりお待ちしております☆

（わかくさ 野上）

大迫力の演奏。龍鬼太鼓の皆さん



成人を祝う会



成人を祝う会は、2月20日(土)に上戸田地域交流センターあいパルにて盛大に行われました。

今回は10人の成人該当者があり、うち7人の参加がありました。当日は来賓として戸田市長、市議会議長、親の会々長、後援会長の皆様をお迎えし、心暖まる祝辞をいただきました。

また、わかくさ、ゆうゆう、かがやきの利用者もそれぞれ初めは緊張気味の面持ちで式典に臨んでいましたが、最後には笑顔いっぱい楽しんでいました。

特に、新成人の方の誕生から現在までの歩みを事業所ごとにスライドショーとして投影しましたが、ほほえましい姿と共に懸命に生きてきた姿は本当に感動するばかりでした。そして、それぞれの人生の重みを深く考えさせられました。また、最後に龍鬼太鼓の皆さんの太鼓演奏がありました。大迫力の演奏が、迫力

満点で、本当に圧巻でした。皆様本当にご協力ありがとうございました。

なお、従来行われていた「交流会」の中では成人式も含めて実施していましたが、今回初めて成人式のみに特定し、祝いの式典として実施しています。戸田わかくさ会では今後も該当者がいる限り実施していく予定です。楽しんでいただけてください。(担当 宮國)



成人を祝う会に参加して

この度は「わかくさ会 成人を祝う会」に参加させて頂きありがとうございました。このような盛大な会を開催して頂いたことに親としても感謝しております。

新成人の小さい頃からのスライド



ショーでは、我が子はもちろん、一緒に育ってきた仲間の幼い顔に、懐かしさとこれまでの成長を感じることができ、思わず涙ぐんでしまいました。職員の方からのメッセージも素敵でとても嬉しかったです。

なかなか同じ年代の人と地域で関わるのが少ない息子のことを地域の皆さんに知ってもらうために、市の成人式に参加することも少し考えましたが、式の内容に息子には難しいなと思いました。

息子本人は成人になったという自覚はないかもしれませんが、同じ作業所の仲間達と一緒に祝いをしてもらったこの日は良い思い出になるでしょう。本当にありがとうございました。(わかくさ 今村弘美)

今年度！わたしたちは進化(深化)します！

平成28年度は法制度の改変期にあたり、様々な変化が予想されます。私たちの事業所運営も障害のある人のくらしや働きがいを更により良い方向へ進めていきたいと考えています。各事業所からの意気込みをお伝えします。

わかくさ

◆働く場の充実

どんなに障害が重くても働けるんだ、という理念を実現していきます。そのために、一人ひとりに合った仕事を探し、工夫、創出していきます。

◆野菜販売を強化

毎月第二土曜日の福祉保健センターでの野菜販売は今年も引き続き行い、加えて第一、第三、第四週は木曜日に他の場所でも野菜販売を追加実施します。これにより収入増を図ると共に、利用者の新しい仕事を創出します。

◆日中活動の充実

「機能維持・向上活動」「創作クラブ・表現活動」を定期的に実施します。また、利用者自治会を定期的に行い、利用者主体の企画を実施します。そして、積極的に地域に出て行くための支援をします。

◆職員の資質向上

職員一人ひとりが、自分の役割を果たす力を身につけ、それをチー

ムとして活かし、高めていきます。そのために外部の研修を受けに行くのはもちろんですが、施設内研修も定期的に実施し、必要な知識、技術を獲得できるように取り組めます。

◆業務改善

日々の業務を、より効率よく行うために毎月、業務改善委員会を開き、業務の見直しと改善、計画の進捗状況の確認をします。また、電子記録ソフトを活用し、更なる業務の効率化を図ると共に、エビデンスに基づいた支援を行います。

今年度もわかくさをよろしくお願ひします。
(所長 菊地)

ゆるゆる



◆27年度を振り返り…

昨年度は新規の入所者がゼロ、新年度もまたゼロのゆるゆるは、平成26年度から同じ顔ぶれの25名

でまた新しい年度がスタートします。

昨年度は、新たなどら焼きの販売場所の開拓にあたり、職員が前職の人脈を活かして倉庫街に進出したたり、あいパルに卸したどら焼きを、あいパルスタッフの方々が素敵にレイアウトしたスペースで販売、驚く程の数を売り上げていただく等の進展がありました。

また、利用者の水村さんのジョラマ作品写真集が完成し、全国誌のグラビアで特集されるなどの反響があり、多方面から新たな光が差し込むような1年でした。

利用者さんを担当してくださる相談支援専門員の方々との連携も着実に増えました。

◆新年度にあたって

今年度は、発達検査を導入し、新たな視点からの利用者理解の手段の一つとしていきます。それぞれの得手不得手を改めて確認、もしくは発見をすることで、より適当な活躍の場を提供できることを目指します。

また記録面において、わかくすで既に導入済みの支援ソフトをゆるゆるでも導入し、多面的、継続

的支援の確立を図っていきます。
着実、確実に仕事をしていくことと併せて、生活の彩りとなるイベント（旅行や忘年会など）を織り交ぜながら、また今年度もゆうゆう一同頑張っていきたいとおっしゃいますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（副所長 浜田）



かがやき

―平成28年度を
スタートするにあたり―

平成27年度は就労移行で2名、就労継続B型で1名、合計3名の就職者が出ました。いずれも利用者が就職したいという強い意思が実を結んだといえます。本当に一生懸命取り組んでくれた就職者の

皆さんに大きな拍手をおくりたいと思います。しかし、まだ出発点にたったばかりですので、これからはがんばっていただきたいと考えます。

さて、かがやきは戸田市の事業所中、唯一の就労移行支援事業所がありますが、その役割は大変重要だと考えています。利用者の皆さんも事業所において一生懸命働くことを基本として、意欲のある人、もつと目標を大きく持ちたい人はぜひ就職にチャレンジしていただきたいと考えています。これは自立の第一歩ですので、精神的にも経済的にも自分の力で生きていくという強い気持ちをぜひ持つてもらいたいし、また、それには家族のみなさんや取り巻く人たちの協力や応援がぜひとも必要ですのでよろしくお願いしたいと思えます。

平成28年度にあたっては、就労の取り組みは勿論のことですが、今後、社会の一員として生活していくための知識や一般常識もある程度身につけられるよう支援していきたいと考えています。また、今年度から引き続き5年間、戸田

市の指定管理を受けることになりました。かがやきは、今後も清掃業務を主体として施設運営を展開させていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（所長 鈴木）

グリーングラス （グループホーム）

平成28年度、グリーングラスの事業ポイントとは、

- ①今後5年10年と住み続けられるようなホーム環境の整備（下笹目の週末開所）
- ②入居者の希望を叶えられるような個別支援計画作成の試行（豊かな生活への支援）
- ③入居希望者の願い（新規ホーム設立）の実現です。

昨年度、法人初のグループホームが開設して5年が経ち、皆様のご協力もあり、現在3ヶ所を運営することが出来るようになりました。今後も安心してホームに住み続けることが出来るように、環境

の整備に力を入れて行きます。特にGG下笹目の週末開所については、以前からご要望があり、今年度後期より実施を致します。

個別支援計画も従来の方法を基に、生活を豊かに楽しくして行けるように、入居者の方との話し合いの時間を大きく取り、希望や願いを実現出来る様な方法に変えて行きます。

また現在3ヶ所のホームを運営していますが、入居希望の声を多く聞きます。そこで来年3月の開所を目指し、新しいグループホームの開所準備を行います。

グループホームは生活の場です。一人ひとりが安心して、暮らしやすい環境を提供しながら、夢や願いを実現出来るよう、事業を進めて行きたいと思えます。

（副所長 和田）



就労支援センター & みなみ

◆事業評価の実施

今年度より全国の障害者就業・生活支援センター（略称「ナカポツ」）では事業評価を実施することになりました。委託先である労働局からの説明では、実施の目的として、各センターの活動状況やその成果を測定・分析しセンター事業の目的に照らした評価を行います。この評価によりセンター事業の計画内容の修正や変更、実行プロセスの改善、事業の質的向上、委託事業の継続実施の判断・予算配分等に反映・活用が予定されています。

◆自己点検と評価委員会

評価の仕組みとして、自己点検による評価と労働局が設置する評価委員会による評価の2段階で実施されます。自己点検では評価・点検シートを用いて、成果、活動

実績、業務運営等の項目に対して評価を行います。評価委員会では各センターの自己点検結果を踏まえ、一定の関係指標を用いて点数化し、県内での「ナカポツ」の序列をつけ、就労支援の活発化を目指したいとしています。

◆『数字』で評価できないこと

2月に埼玉県内の10か所の「ナカポツ」が集まる会議でも事業評価が議題となり意見交換がされました。評価の基準として就労件数や実習件数、相談件数と言った『数字』は客観的事実として容易に評価しやすいものです。しかし、自身の障害と向き合い、生活を整え、訓練をし3年かけて就職をしたAさんも、相談に来て、ハローワークで応募をし、3ヶ月で就職できたBさんも同じ就労件数は同じ1件です。そこには数字では評価できない支援者の関わりがあると思います。私たちが目指すものは着実な支援を積み重ねた結果の数字でありたいと思います。

（副所長 酒井）

わかば & ひかり

〈相談支援の充実を目指して 振り返りと抱負〉

平成27年度は、戸田市で計画相談（※）が開始し、わかばにもサービス等利用計画書作成のご依頼やお問い合わせが増えました。

当法人の事業所を利用されている方々からは、『何が変わるのか良く分からない』とのお声もあり、なるべく安心して計画相談を開始していただけるよう家族会で説明をしたり、わかばニュースを発行して制度変更のお知らせをおこないました。11月には、計画相談を専門におこなう指定特定相談支援事業所ひかりを開設し、ご依頼を受けられる体制整備に努めました。

また、平成26年度に引き続き、障害を持つについても安心して暮らせる地域を目指し、『親の5年後子ども5年後 一緒に考えよう』と題する勉強会を5回開催しました。様々な年代、立場の方々に参加いただき、情報交換の場としても活用いただけたのではないかと思いますし、私共スタッフに

とっても学びを深める貴重な機会となりました。

平成28年度は、わかばとひかりの連携のもと、より信頼される相談支援事業所を目指して努力していきます。身近な相談先として、お気軽にご相談ください。また、勉強会についても、地域の暮らしをより良くしていくために一緒に学び考えていける場として充実発展させていきたいと思っています。

今年度もどうぞよろしく願います。
（主任 高野）

※平成24年4月の法改正により、障害福祉サービスを新たに申請される時や受給者証の更新時に「サービス等利用計画書」が必要になりました。市役所の窓口で手続きをした後、指定特定相談支援事業所に計画書の作成を依頼することとなっています。

新任職員5名 新人研修受講



新入職員の5名（右から）

森 直也支援員（かがやき）
星 有規子支援員（かがやき）
永井穂乃香支援員（わかくさ）
西川栄美子コーディネーター
（わかば）
織茂泰則支援員（わかくさ）

去る3月11・12・14日の3日間、新人研修が行われました。この研修は、法人に就職した「新人」が受ける研修で、3月の研修は4月採用者の事前研修も兼ねています。

福祉業界、とりわけ障害者福祉事業所の職員採用が困難な状況の中、社会福祉を専門に学んだ5名の新人を迎えられることは大変ありがたいことだと実感しています。

法人としては、キャリアパス制度に基づく研修を実施するとともに自己研鑽にも励んでいただき、名実とも「専門職」として活躍されることを期待しています。

新入職員は4月1日の辞令交付の後、配属先に向かい業務に従事していきます。

1年先輩も活躍中！就活セミナーにて発表

平成28年3月12日（土）、彩の国すこやかプラザにて、新卒学生を対象とした「福祉業界就活オーピングセミナー」が開かれました。会場には、リクルートスーツに身を包んだ100人以上の参加者のみなさんの姿がありました。

「若手職員からのメッセージ」

高齢・障害・児童・市町村社協のそれぞれの分野から、若手職員による発表が行われました。障害分野として、今回、わかくさに所属する太田が発表する機会をいただきました。

職場や仕事内容のことはもちろん、働く上で私にとっての楽しいこと、難しいこと、新任職員に求められていることについてお話しせてもらいました。楽しいのはやはり、利用者さんの笑顔が見られた時です。みなさんに助けられること、みなさんとの関わりから学ばされることは多く、日々みなさんの力、新しい発見が尽きません。支援の上で悩むことは多くありますが、失敗を次に活かしているように、よく振り返ります。新任職員にとっては、やはり新しい

気持ち、素直な気持ちが一番求められているのではないかと思います。

こうして改めて、新しく将来に向かつて歩み出そうとしている皆さんに、知的障害のあるみなさんとの関わりを、お話ししようとして、1年を振り返る機会にもなりました。みなさんにお伝えしたことは、自分にとっても改めていつも意識したいことばかりです。様々な出会いとともに、利用者の皆さんの「いい表情」を引き出せる場を作っていきたいと思っています。

（わかくさ 太田）

【概要】

平成27年度 福祉業界就活オーピングセミナー

日時：平成28年3月12日（土）

場所：彩の国すこやかプラザ

主催：埼玉県・社会福祉法人埼玉

玉県社会福祉協議会・一般社団法人日本社会福祉士

養成校協会埼玉支部

協力：埼玉県介護福祉士養成校

連絡協議会・公益社団法人埼玉福祉士会

対象：新卒学生

表現活動の根源と「感じる」

戸田わかくさ会では「創作活動」でなく「表現活動」という言葉を使用しています。これは、「創作活動」が作品制作を示す極めて限定的な意味合いなのに対し、「表現活動」は人間が生きていく上で必要な身体表現や感情表現を包含する意味合いがあるからです。

わかくさの今村明義さんは、大好きな枝や葉っぱを毎日道端で手折ってきた室内まで持ち込んでヒラヒラ指先で揺らしています。感覚で自然を捉えているのです。「ペンで何かドローイングする」ことが難しい彼でも、自ら探して手折ってきた枝を自分で意図的に加工して、好みの形に変えています。そこには純粋な「感覚」の世界があります。

画家でアートディレクターの中津川浩章さんは、フェイスブックで「こういった一見普通、何気ないものの中にあるプライバシーな



梅の花
たをりかざして遊べども
飽き足らぬ日は
今日にしありけり
（『万葉集』より）

と評価され、たくさんのコメント（「素敵。風の音が聞こえてきそう。」等）をもらいました。（清水）

感覚って深いなあと感じます。」

「こういったささやかだけど切実な感覚を共有できたらほんとに新しいアートが生まれる可能性を感じています。」と今村明義さんの作品を紹介しました。このとき今村明義さんの作品は、一晩で百五十人以上の人たちに「いいね！」

人 事

平成28年度の法人各事業所の主要人事は次の通りです。

（平成28年4月1日発令）

統括施設長	竹嶋 紘	事務長	吉川 洋一（新）	主任	小野 寺陽子	所長	菊地 久雄	副所長	石川 丈（新）	主任	野上 義史（新）	所長	草柳 努	副所長	浜田 知奈（新）	かがやき	鈴木 利夫	グリーングラス	和田 雅彦	副所長	猪野 真由美（新）	主任	高野 永	副所長	酒井 正博
-------	------	-----	----------	----	--------	----	-------	-----	---------	----	----------	----	------	-----	----------	------	-------	---------	-------	-----	-----------	----	------	-----	-------

（法人の運営する事業所）

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり

（ホームページはこちら）

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【 発 行 】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

（編集後記）

新年度に入り、これからイベントや行事が決まってきます。多くの情報を皆様届けます。そして、戸田わかくさ会全体の様子も記事にして、皆様にお伝えできたらと思います。

今年度も、宜しくお願い致します。

現在進行・検討中

わかくさの野菜販売の予約を検討中。ゆうゆうどらやきをイオンの商品として取扱い交渉中。かがやき、墓地清掃を検討中。

進展を乞うご期待！！